

慢性腎臓病

腎臓は、“体の中をきれいな状態に保つ”ために仕事をしています。特に大切なのは、体の血液をろ過して、おしっこがつくられることです。このおしっこの中には体にとって不必要な老廃物が排出され、体の中に毒素がたまるないようにしてるのです。





この腎臓は、約20万個ものネフロンと呼ばれる単位で構成され、これが何らかの原因で壊れてしまうと、他の

ネフロンはその分も働こうと無理をし、更に多くのネフロンが壊れていきます。こうして働けるネフロンの数が少しずつ減り、腎臓の機能が低下していくことを慢性腎臓病といいます。

一度壊れたネフロンは元には戻らないので、慢性腎臓病は完全に治すことは出来ませんが、食事の改善、お薬などで病気の進行を遅らせることが出来ます。

慢性腎臓病の診断

IRISによる犬と猫のCKDステージ分類

適応ステージ		1	2	3	4
クレアチニンの血清濃度 (mg/dL)	犬 猫	~1.4 ~1.6	1.4~2.0 1.6~2.8	2.1~5.0 2.9~5.0	5.0~ 5.0~
腎臓の状態 (イメージ図)					
残存している腎機能の割合 (%)		100~33	33~25	25~10	10~
所見		何かしらの異常がある	軽度の臨床症状	全身に様々な症状がある	尿毒症の危険性が増加

血清リン濃度の推奨目標

適応ステージ	1	2	3	4
血清リン濃度の目標 (mg/dL)		3.5~4.5	3.5~5.0	3.5~6.0

サブステージ分類

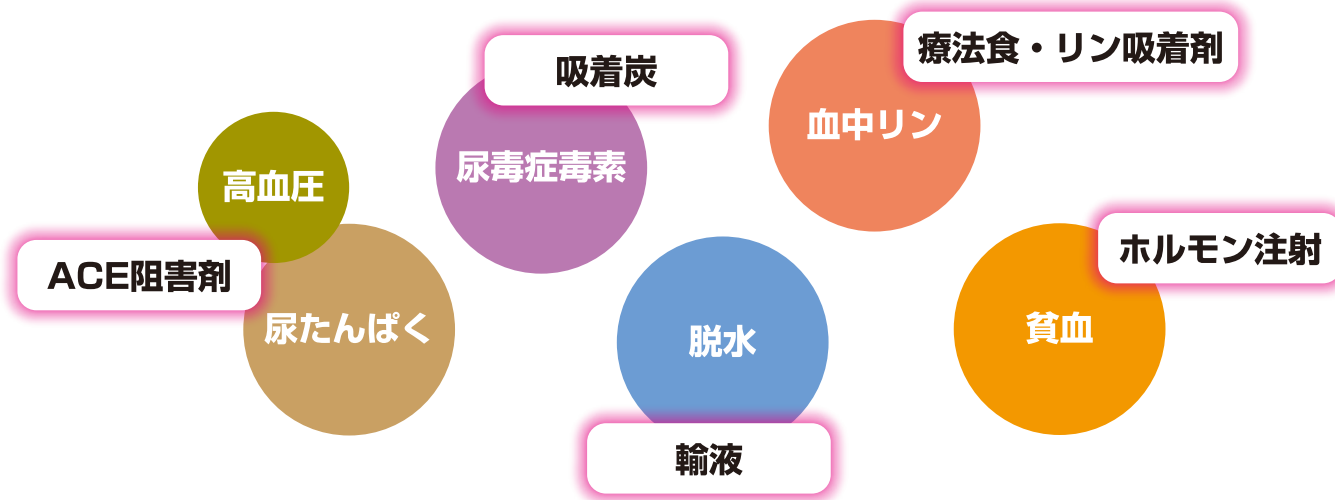
(尿タンパク/クレアチニン比)

	犬	猫
● 蛋白尿ではない	~0.2	~0.2
● 蛋白尿の境界 (ボーダーライン蛋白尿)	0.2~0.5	0.2~0.4
● 蛋白尿である	0.5~	0.4~

サブステージ分類 (血圧<mmHg>)

	犬・猫
● 最少リスク	130~150
● 低リスク	150~160
● 中等度リスク	160~180
● 高リスク	180~

慢性腎臓病の管理戦略



身近なペットのホームドクター

中山どうぶつ病院

<http://www.doubutu.jp>